

躍進 京滋の中小企業

街

なかで見かけるアスファルトの補修工事は、通行止めにして交通の支障となることが多い。自社開発した両面テープ状接着剤「アステープ」を使えば、安全に工事時間の短縮が図れるという。火気を使って接着剤を溶かす工程が省け、「発火や作業員のやけどの危険がなくなる。全国で工事のやり方が変わる画期的な工法が提案できた」と石川英明社長(35)は胸を張る。

舗装面は通行車両の重みなどで数年たつと劣化し、穴や段差ができ、表面の補修工事がいる。アスファルト合材を敷く境目には専用の接着剤を塗布する工法が主流だが、缶ごとバーナーの火で200度近くまで加熱し、ひしゃくで路面に流す作業が必要だった。

アステープを使った作業は単純だ。補修する路面の境目にアステープを張り、テープの紙をはがす。アスファルト合材を敷き、重機などで力を加え均一化させる。一連の作業を終えるころ、従来工法なら「まだ接着剤を溶かしている段階」といい、時間短縮に加え、作業員数の削減にもつながる。

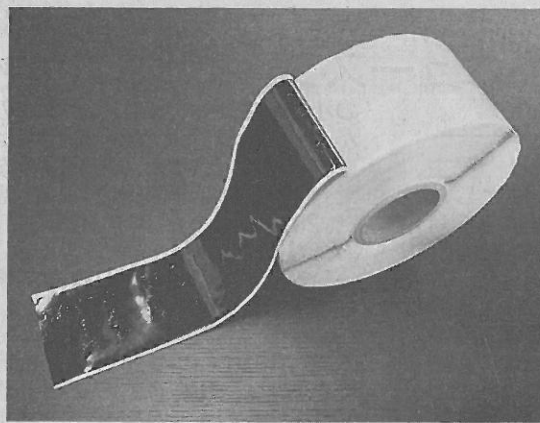
石川建設

(京都市伏見区)



公道や民間の駐車場、工場などの舗装を手掛けてきた石川社長は「住宅密集地などで火を使う場所を探すのにも一苦労だった」と、2003年から火を使わない簡便な工法を探り始め、アイデアを形にするため試行錯誤を続け、10年12月には特許登録を完了した。粘着製品開発の「第3回知恵ビジネス」

今 年2月には京都商工会議所「第3回知恵ビジネス」で新工法が知恵ビジネスに認定された。舗装の仕事に加え、5月中にインターネット通販と代理店を通じての販売を育てたい(上野正俊)



アステープでアスファルト合材を接着できるアステープ
アステープでアスファルト面を補修する
工事作業員(京都市東山区)

テープで道路補修短縮

1980年、京都市伏見区で創業。99年に会社設立。主に道路や駐車場、工場敷地などの舗装工事を行う。父・茂三氏の後を継ぎ、英明

メモ

氏は2006年に社長就任。従業員20人。11年4月期の売上高は2億1700万円。京都市伏見区深草小久保町。

「白ココア」を企画開発した
ネスレ日本飲料ビジネス部マーケティングスペシャリスト

長 年売れ続ける「ロングセラー」

後文

の絆など地域社会を意識した チック製に刷新。80年以上親
戦略に転換した。 しまれてきた水玉の包装紙を

曜 日